

日付	学科	学年	番号	名前
/				

## 第1章 6 「ガウスの発散定理」 第2回

1. 平面  $x = 0$ ,  $x = 2$ ,  $y = 0$ ,  $y = 1$ ,  $z = 0$ ,  $z = 3$  で囲まれる立体  $V$  の表面を  $S$  とするとき、ベクトル場  $\mathbf{a} = (4x + 3z, 2xy, 2z^2)$  の  $S$  上の面積分  $\int_S \mathbf{a} \cdot \mathbf{n} dS$  の値を求めよ。ただし、 $S$  の単位法線ベクトル  $\mathbf{n}$  は、 $S$  の外側を向くものとする。

2. 原点  $O$  と 3 点  $(1, 0, 0)$ ,  $(0, 1, 0)$ ,  $(0, 0, 3)$  を頂点とする三角錐  $V$  の表面を  $S$  とするとき、ベクトル場  $\mathbf{a} = (2x(1 - 2y), 2y - 3y^2, 10yz)$  の  $S$  上の面積分  $\int_S \mathbf{a} \cdot \mathbf{n} dS$  の値を求めよ。ただし、 $S$  の単位法線ベクトル  $\mathbf{n}$  は、 $S$  の外側を向くものとする。

**例題** 原点  $O$  を中心とする半径 1 の球面を  $S$  とし、球面  $S$  に囲まれた立体の体積を  $V$  とする。このとき、ベクトル場  $\mathbf{a} = (3x, 2y, y + 5z)$  の面積分  $\int_S \mathbf{a} \cdot \mathbf{n} dS$  の値をガウスの発散定理を用いて求めよ。ただし、 $S$  の単位法線ベクトル  $\mathbf{n}$  は、 $S$  の外側を向くものとする。

**解** ガウスの発散定理より  $\int_S \mathbf{a} \cdot \mathbf{n} dS = \int_V \nabla \cdot \mathbf{a} dV$

$$\text{ここで } \nabla \cdot \mathbf{a} = \frac{\partial}{\partial x}(3x) + \frac{\partial}{\partial y}(2y) + \frac{\partial}{\partial z}(y + 5z) = 3 + 2 + 5 = 10$$

$$\text{したがって } \int_V \nabla \cdot \mathbf{a} dV = \int_V 10 dV = 10 \times (V \text{ の体積}) = 10 \times \left( \frac{4}{3} \pi \times 1^3 \right) = \frac{40}{3} \pi$$

3. 原点  $O$  を中心とする半径 2 の球面を  $S$  とし、球面  $S$  に囲まれた立体の体積を  $V$  とする。このとき、ベクトル場  $\mathbf{a} = (x - y, x + y, z)$  の面積分  $\int_S \mathbf{a} \cdot \mathbf{n} dS$  の値をガウスの発散定理を用いて求めよ。ただし、 $S$  の単位法線ベクトル  $\mathbf{n}$  は、 $S$  の外側を向くものとする。